

友愛

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL: 03-5684-3188

FAX: 03-5684-3186

E-Mail: you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月～3月)

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

鳩山由紀夫理事長

国際I of C主催「民主主義フォーラム」で基調講演

ジュネーブ及びコーでの開催に参加

演題「友愛、責任、民主主義の未来」(Fraternity, responsibility and the future of democracy)

6月22日(月)・23日(火)の両日、鳩山由紀夫理事長は、国際I of Cの招きにより同協会の主催する「民主主義フォーラム」に於いて「友愛、責任、民主主義の未来」と題して、基調講演を行った。第一日目は、スイス・ジュネーブに於いて、二日目は、ジュネーブの北東に位置する山岳都市、国際会議の場として有名な、コー(Caux)で開催の会議において基調講演を行った。ここにその骨子をご紹介します。(編集部注：国際I of C (Initiatives of Change)／国際NGO。日本名：国際I C日本協会。旧MRA (Moral ReArmament・道徳再武装)。コーはその拠点となっている。)

鳩山由紀夫理事長講演

皆さん こんにちは。鳩山由紀夫です。今回も元国際MRA日本協会専務理事の藤田幸久さんと一緒に伺いました。

国際I of C (Initiatives of Change)は、第2次大戦後の日本の国際社会復帰、アジア太平洋諸国との和解、経済復興に比類なき貢献をされました。特に「武力ではなく道徳で再武装する」との理念が日本の軍事

費の抑制と経済復興に貢献したと思います。

祖父、鳩山一郎元首相は70年前に国際I of Cの創始者フランク・ブックマン博士を日本で迎え、【編集部注：1956年の来日時に、当時の鳩山一郎首相はブルックマン博士を繰り返し官邸や私邸(現鳩山会館)に招き、世界の情勢や日本の未来について助言を求めた。】国家や社会に対して長年にわたり顕著な功労や功

績を挙げた人物に対する叙勲を決定し、その栄誉を称えました。【編集部注：日本政府は、終戦直後の日本が国際社会へ復帰するにあたり、ブルックマン博士の果たされた支援等を高く評価し功労に報いるため、鳩山内閣のもと叙勲を決定した。】

日ソ共同宣言の意義

その数か月後に祖父一郎は、モスクワを訪問し、1か月の交渉の末に日ソ国交回復を実現しました。祖父が正に病軀を押し命懸けでモスクワを訪問したのは、当時シベリアに抑留されて

いた日本人の帰国を最優先したからです。「領土は逃げない、しかし、人の命は明日をも知れない」と語ったと言われます。私はここに祖父の友愛の原点を見る思いがします。そしてこの共同宣言の調印こそが、日本の国際連合加盟への布石となったのです。【編集部注：当時、日本の国際連合(国連)加盟は、常任理事国であったソ連の拒否権発動によって阻まれていた。日ソ国交回復によりソ連が日本の国連加盟に同意し、同年12月18日、日本は80番目の加盟国として国連への加盟を果たした。】本年国連のグテレス事務総長が東京での国連加盟70周年式典に参加されたことに感謝します。

鳩山一郎は、ヨーロッパ統合のための最古の組織である「汎ヨーロッパ連合」を主宰したりヒュルト・クーデンホフ・カレルギー伯の「友愛」の理念・哲学に深く共鳴しました。そして、この友愛を「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」と説き、敗戦後の日本復興の鍵として、友愛社会の実現に力を注ぎました。

「友愛」の主権

カレルギー伯の父は、オーストリア・ハンガリー帝国の駐日代理大使していたハインリヒ・クーデンホーフ伯で、日本人の青山みつさんと結婚し、その間に生まれたのがカレルギー伯です。私は、彼の倫理に対する理念は、この母親の大きな影響を受けたと思います。「友愛」は決して錆びついた時代遅れの考えではあり

りません。カレルギー伯は、関税障壁の撤廃、共通通貨の創設、軍事と外交政策の統一、利害調整機関の創設などを提唱しました。が、これこそ、関税戦争とイランなどに対する攻撃を繰り返すトランプ大統領による分断とVolatility(激しい変動)が闊歩する世界に対して各国が連帯できる道ではないでしょうか？

私は、議員引退後に「東アジア共同体研究所」を創設し中国や韓国、ASEAN諸国などを訪問して歴史認識に基づく日本の戦争責任と植民地支配を素直に謝罪し、その上で和解や友好の絆を構築する活動を行なってきました。過去に責任を持たなければ、友好の未来の扉を開くことはできないと確信しているからです。

そして私は、友愛の唱える「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」を基に、「友愛の主権」というものを提唱しています。これは、主権を単なる「排他的な権利」としてではなく、「共に生きるための責任」として理解する考え方です。

21世紀の今、気候変動、感染症、巨大な格差、戦争と難民問題など、主権国家一国だけでは解決できない課題が山積しています。にもかかわらず、各国が「自国第一」を掲げて主権を競い合えば、「地球全体の持続可能性」は失われてしまいます。だからこそ、主権の本身そのものを問い直す必要があります。「他国を排除するための主権」から、「共生と友愛を実現するための主権」への転換。これが、私の申し上げる「友愛の主権」です。

世界の現実を前にして、私たちは「主権」をどう考え直すべきかが問われていると思います。

夢を持続して

私たちはこのまま、「自国さえ守ればよい」という排他的な主権の発想に、しがみつき続けるのでしょうか。それとも、自国を守りながら、他国民の尊厳も守るという、より高い次元の主権へと、あえて一歩踏み出すのか。

いま世界は、その決断を私たち一人ひとりに迫っている。私は考えています。カレルギー伯が友愛を唱えて欧州を現在のEUという不戦の共同体にまで導く基礎を作られたように、私は友愛を広めることにより、東アジアを戦争のない一つの共同体に、そして世界を戦争の起きない運命共同体にしていく夢を持続させていきたいと思っています。

友愛時評

▼エヤップ一行の広島訪問に同行した際、宮島の山頂に登る羽目になった。ロープウェイの終点から片道四〇分の山道、酷暑三十六度のカンカン照りの下で死ぬ思いをしたが、オーストリア人はさすがいと登つていく。筆者も幼少期は野山を駆け回って育ったつもりだが、さすがはアルプスの麓の人々、鍛え方が一味違う。そうした山に慣れ親しんだ我々にとって、ネパール・チベット土石流の映像はあまりにショッキングであった。この土石流を惹き起こした氷河の崩落が地球温暖化によるものだと思えば、今後同様の災害が続くことが危惧される。一度は彼の地にトレッキングに行つてみたいと思つていたが、難しそうである。▼ネパールは世界の最貧国であり、インフラ整備の遅れがその一因とされる。今回の土石流により土砂に埋もれた水力発電所は国際協力によるインフラ整備計画の一環だったわけだが、国土計画を根本から見直す必要がありそうだ。実はネパール政府は気候変動による氷河融解や洪水に対応すべく、二〇五〇年までの長期計画を策定・実施していたのだが、急ピッチの温暖化と甚大な被害は「想定外」だったということかもしれない。▼「自国ファースト」が蔓延する世界で、地球環境問題への取り組みはないがしろにされている。ネパールのカナル外相が訴えるように、温室効果ガスの主要排出国ではなく、最貧国や島嶼国がその「代償」を払わされる。先進国においても、熱波や豪雨・洪水の被害を受ける層には偏りがある。そんな世界が持続可能とは思えない。(ヒゲ)



講演する鳩山由紀夫理事長 終了後、大きな拍手につつまれた



鳩山一郎総理(当時)は、フランク・ブックマン博士を私邸(現鳩山会館)にお招きして歓談。歴史的に貴重な写真である



1956年10月19日、モスクワにおいて「日ソ共同宣言」の調印式が行われた 日ソ国交回復の礎



講演を終えて、他のパネリストの方々と記念撮影。鳩山由紀夫理事長と夫妻(中央二人)

OEJAB 12名来日 鳩山会館見学 お茶席体験で活動開始

広島松井市長訪問 平和記念公園で献花 京都見学など多彩な14日間

友愛についての研修 友愛ユニオンメンバーのアテンドなど友愛との交流も充実

8月22日（土）オーストラリアOEJABから12名のお客様が来日された。OEJABの要職にある、Sabrina Victoria Neilさん、Nenad Kasicさんを始めとする学生10名を含めた研修生一行である。一行は暑い暑いと言いつつも、旅の疲れもみせず、

翌日からのスケジュールをこなし、24日には広島に向けて出発した。到着翌日には、友愛サロンの研修を受け、その後鳩山会館を訪問。昼食後、資料室に設えたお茶室で「茶道体験」を楽しんだ。24日、広島に向けて出

発、翌25日に、松井一實広島市長のご協力を得て、広島市庁舎を訪問させていただき、平和記念公園での献花、平和記念資料館の見学などを予定している。さらに京都に移動し、伏見稲荷、平等院などを見学、東京に戻ってくる。東京では、森本真治参議

院議員のご好意で、国会議事堂見学、執務室見学なども予定されている。9月1日には、鳩山由紀夫理事長はじめ、友愛関係者との歓迎食事も用意されており、多彩な日程をこなす。一行のアテンドには、友愛ユニオン有志が担当、若者同志の交流も実現

した。今号では、23日の、鳩山会館訪問、お茶会の様子を主に報告、広島以降の様子については次号にてご報告させていただきます。滞在予定 8月22日（土）成田着・9月3日（木）成田発帰国

夕食は日本の中華。後藤理事の説明に耳を傾ける。戸澤教授も一緒に楽しい食事を演出

「旅のしおり」も作成、友愛ユニオンアテンドリーダー藤田脩椰さんの説明から、この旅は始まった



暑い日差しの中、鳩山会館を背に全員で「友愛」サイをして記念撮影。どこをみても「ステキ」の連続。友愛の思いとともに、鳩山会館も深く印象に残ったようだ



鳩山会館を見学し、友愛の歴史を勉強。西川理事も堂に入った案内人として活躍



自分でもお茶を点てて見たいという強者が数名出現。伊藤里彩さんが、優しくその作法を伝授



攪上理事（左端）ユニオンの堆美優さん（右奥）も加わって賑やかなテーブル。日本中華は大好評



友愛サロンにて表彰式開催

友愛賞2名受賞 入選3名が揃って賞状を受ける
快板・中国茶茶道の披露も加わり、和やかなひとときを

6月22日（土）11時より友愛サロンにおいて友愛小論文コンテストの授賞式が開催された。これは2月28日（土）鳩山会館を会場に実施された、「友愛小論文コンテスト」のための交流会を基に、参加の留学生各人によって書かれた小論文「私にとって友愛とは」の受賞者を表彰するもので、今回は第一位となる友愛賞に2名が選出された。当日は、受賞生を始め、友愛ユニオン、関係各位が参加、文化披露もあり和やかな授賞式となった。

当日は雨にも関わらず全員が元気に出席してくださった。井田理事の司会進行で、式典は進められ担当の攪上理事から受賞の各人に賞状が読み上げられ、副賞と共に手渡された。

2月の交流会の際には、まだ日本語がおぼつかなかった学生も、すっかり日本の生活、日本語に馴染み、流暢な日本語で感謝の意を述べた。

受賞式の後には懇親昼食会となり、千代田教育グループの大畑凛恩さんが「快板」の妙技を披露してくださった。これは竹で作られたカステネットのような板を鳴らしながら漫談を語る中国の伝統芸能の一つで、「中国伝統芸能ラップ」とも言われており、そのリズムミカルな音を楽しんだ。

また、日中文化交流基金会の周小珍さんが、中国茶を作法に則って淹れる中国茶道の妙技を披露してくださり、参加者全員に様々な味の違う中郷茶を振る舞ってくださった。

周さんはこの日、自宅の庭に咲いたヒマワリをお茶席を彩る花として持参され、その気配りに皆が感動し、中国茶の極意を味わっ



たと好評を博した。

友愛ユニオンからは、藤田脩椰さん、已上小楽咲さんが参加、2月当時の印象などを語った。2人は受賞者達と、2月以来の再会を喜び、受賞のお祝いを伝えた。昼食会では、若者同志の話しに花を咲かせていた。

外国からの留学生を対象に行われるこの「友愛小論文コンテスト」は、友愛理念を海外の若者に伝えるのと同時に、友愛ユニオンメンバーとの交流などを通じて、真の国際交流実践の機会としても有意義な展開をみせている。

今回は、紙上で友愛受賞のお二人の作品をご紹介します、友愛理念の重要さ、それを伝えていくことの大切さをお考えいただきたい。

.....

受賞者

友愛賞

LE THI NGOC TUYET

ベトナム国籍

靳心洋 中国国籍

入選

梁曉琪 中国国籍

李新玉 中国国籍

張江尔芯 中国国籍

BITALU RAM

ネパール国籍

何秦 中国国籍／(欠席)

表彰式参加者

千代田教育グループ・

千代田教育グループ

会長 栗田 秀子

千代田国際語学院

学院長 森田 浩樹

暨南大学日本学院

張 紅明

日中文化教育友好交流基金会

周 小珍

千葉日建工科専門学校

渡邊 ユリア

千代田教育グループ

会長補佐 大畑 凜恩

公益財団法人友愛

理事 攬上 哲夫

理事 西川 伸起

理事 井田 安信

事務局長 羽中田 元美

友愛ユニオン

藤田 脩椰

已上 小楽咲

.....

「私にとって

友愛とは」

暨南大学日本学院3年生

LE THI NGOC TUYET

(レティ ゴック トウエット)

ベトナム国籍

私にとって友愛とは、国や文化が違ってても、お互いに理解しようとし、助け合う気持ちのことだと思っています。言葉や習慣が違っていても、相手を大切に思う心があれば、友情を作ることができると考えています。今回、私はそのことを強く実感する貴重な経験をしました。

はじめに自己紹介をさせていただきます。私はレティ・ゴック・トウエットと申します。2001年生まれで、現在は暨南大学日本学院の2年生です。日本語を学ぶために日本に来て、日々日本語や日本文化について勉強しています。2026年2月28日、私は「友愛ユニオンと千代田教育グループ留学生の多文

化交流会」に参加しまし

た。場所は東京にある歴史的な建物、鳩山会館でした。このイベントは、さまざまな国の留学生が集まり、「友愛」と「国際交流」について考える貴重な機会でした。

当日は、はじめに主催者の方々の挨拶がありました。その中で、「国や文化を超えて理解し合うことの大切さ」が語られ、私は友愛の意味について深く考えるきっかけを得ました。また、友愛を紹介するビデオを通して、実際の国際交流の様子を知り、友愛は言葉だけでなく行動で示すものだと感じました。

その後、友愛ユニオンのメンバーによるスピーチがこの事業の意義を力説

攬上 哲夫理事



いつも素敵な笑顔で挨拶

栗田秀子会長



行われ、それぞれが異なる経験を通して友愛について語っていました。私はその話を聞きながら、自分も勇気を出して意見を伝えたいと思うようになりました。

次に行われたテーブルディスカッションでは、「日本に来て感じたカルチャーショック」というテーマについて話し合いました。中国、ベトナム、ネパールなど、さまざまな国の学生と意見を交換する中で、文化の違いに驚くだけでなく、その違いを理解しようとする

ことが大切だと感じました。これがこそが、友愛の第一歩だと思っています。

私も発表の機会をいただき、自分の経験について話しました。私は日本語がま

意見交換会の折も活躍



友愛についてすっかり詳しくなっ

森田浩樹学院長



だ上手ではなく、N3程度

のレベルなので、人前で話すとても緊張しました。しかし、友愛の場では、お互いに支え合う雰囲気があり、安心して話すことができました。

私は特に「昼寝」という文化について紹介しました。ベトナムでは昼寝はとても大切な習慣で、多くの人が昼食後に短い休憩を取ります。一方、日本ではそ

のような習慣はあまりなく、多くの人が忙しく働いています。そのため、電車の中で眠っている人をよく見かけます。この違いに最初は驚きましたが、相手の生活や文化を理解すること

友愛受賞 靳心洋さんを中心に記念撮影



友愛受賞「LE THI NGOC TUYET」さんも笑顔でカメラに収まった



感じました。

イベントの最後には、全体のまとめが行われ、「違いを認め合い、尊重することが友愛である」というメッセージが印象に残りました。その後、参加者全員で写真を撮り、昼食を共にしました。同じ時間を過ごし、笑顔で交流することで、言葉の壁を越えたつながりを感じることができました。

また、希望者は鳩山会館の見学も行いました。館内には鳩山家の歴史や日本の政治・教育に関する展示がありました。さらに、西洋文化との交流の歴史も紹介されており、日本がどのように他国と関わってきたかを学ぶことができました。これもまた、友愛の一

入選 梁曉琪さんはちよつと緊張した面持ちでカメラに目を向けた



友愛ユニオンから参加藤田脩椰さん(右)已上小楽咲さん(左)も挨拶



つの形だと思っています。

庭園には美しい景色が広がり、バラ園や池の鯉などを感ずることができました。このような穏やかな空間で過ごす時間も、人々との距離を縮める大切な要素だと感じました。

今回の経験を通して、私は友愛とは単なる言葉ではなく、「理解しようとする姿勢」「違いを受け入れる心」「共に時間を過ごすこと」によって生まれるものだ

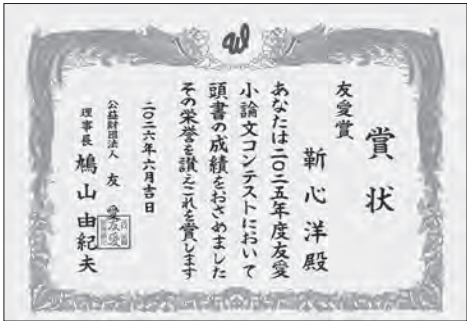
と学びました。私は日本がとても好きで、日本語を学ぶために来日しました。言語を学ぶことで、多くの人とつながり、新しい文化を理解することが

ヒマワリを持参してくださった周さん。お茶の説明も見事！



快板を披露してくださった大畑さん。リズムに乗り見事な中国語で





本語の勉強を続け、より深い交流ができるよう努力したいと思います。
そして将来は、日本と自分の国をつなぐ架け橋となり、友愛の精神を広げていきたいと考えています。
.....

私にとって

友愛とは

千代田国際語学院 卒業

斬心洋

(キン シンヨウ)

中国国籍

私にとって「友愛」とは、

他者を尊重する気持ちから生まれる良好な関係の総称である。ただ仲が良いことや、いつも一緒にいる友達のような関係だけでは、必ずしも「友愛」とは言えない。私は、本当の友愛とは、まだ出会ったことのない見知らぬ人や、自分とは異なる意見を持つ人に対して、同じ一人の人間として認め、大切にし、その存在を尊重することだと思う。私たちはとても幸運なことに、この時代に生まれ、同じ地球のさまざまな場所

で、それぞれ異なる考え方や価値観を持ちながら生きている。育った環境や経験が違う以上、同じ出来事に對しても感じ方が異なるのは自然なことである。しかし、その違いを無視したり否定したりすれば、自分の世界を狭めてしまうだけだと思ふ。「友愛」の始まりとは、同じでありながらもどこか異なる「他者」を受け入れることではないだろうか。異なる視点を知ること、私たちは小さな自分の世界から一歩外へ出て、より広く、より深い存在へと成長していくことができる。

たことがある。例えば、バスに乗るときに小銭が足りず困っていたとき、見知らぬ人が親切に両替をしてくれたことがあった。また、海外で道に迷い、言葉もうまく通じない中で、通りすがりの人が丁寧に道を教えてくれたこともある。気持ちが落ち込んでいたときには、友人が静かに話を聞いてくれたこともあった。さらには、家で飼っている猫がそつと頭をこすりつけてきて、まるで慰めてくれているように感じたこともある。どれも小さな出来事ではあるが、私にとっては大切な記憶である。友愛とは、相手を変えることではなく、その存在を受け入れることだと思う。人は誰でも、自分の力だけではどうにもならないときがある。そんなとき、ただ誰かがそばにいてくれるだけで、不思議と勇気や安心感が生まれるものだ。もし私が誰かに助けてもらったなら、今度は自分もいつか誰かを助けたいと思う。

「友愛」とは一つの感情であると同時に、他者と共に生きようとする真摯な願いでもある。他者を尊重することから始まり、理解と信頼の中で静かに根を張り、やがて大きく育っていくものだと思ふ。私は、千代田国際語学院と友愛財団の活動に参加する中で、国を越えた人々の善意や温かさを実際に感じることで、きた。これからも、他者を尊重する気持ちを大切にしながら、本当の意味での「友愛」を築いていきたいと思う。

From Houston with YUAI

～ヒューストンで出会った友愛のかたち～

田島桃子／友愛ユニオン・ヒューストン在住 Vol.2 心満たされる瞬間

現地生活にも慣れ、あつという間に赴任から約1年が経とうとしていきます。今回は日常生活の中で気が付いたことをご紹介します。アメリカに来て、日本では当たり前だと思っていたことのひとつ、ひとつに喜びや有難さを感じるようになりました。

日々の衣食住も以前に比べ、丁寧になったように感じます。それは、何でも便利で簡単に手に入っていた日本と異なり、自分の心地良さ・快適さのためには何かしら工夫することが求められるからだと思います。日本では、外食やコンビニを含め、その時々で気分で食べたいものを手に入れます。しかし、アメリカではそうはいきません。手軽なハンバーガーやピザで毎日過ごす訳にはいきませんし、レストランではチップも必要ということもあり、安易には行かれません。基本的には皆家で自炊をすることが多いです。そんな生活の中で、逆に強く感じるようになったのが、「人と一緒に美味しい食事を囲むこと」の喜びです。同じ場所に集い、人と繋がりが、共に食事をすること。その時間が、日々の生活に

第48回理事会開催 就業規則など承認

7月17日（金）16時30分

出席理事・監事

より友愛サロンにおいて、第48回理事会が開催され、第一号議案就業規則、給与規定、退職金規程、育児・介護休業規程、旅費規程が全会一致で承認され、新たに施行されることとなった。第二号議案印章規程についても議論が交わされ、全会一致で原案どおり可決された。これを受け、2026年度以降は、新たな規程により運営されることとなった。

世代の仲間と生活を共にしていた留学の時とは異なり、仕事で来た異国で、誰かと一緒に食卓を囲む機会が減り、そこで初めて、その時間の大切さに気づくことができました。誰かと同じ時間を過ごし、食事を共にすることは、思っていた以上に私たちの心を豊かにしてくれるものなのだ、日々実感しています。だからこそ今では、周りに誘っていただくだけでなく、自ら声をかけて、ホームパーティーやBBQを企画することを楽しんでいきます。

2026年度年会費納入のお願い
※今回の機関紙には年会費の振り込み用紙を同封しております。これは2026年度分のお届けに間に合います。ご協力をお願いします。誤った封入された場合はご容赦ください。
※友愛への会費（寄付）は、税額控除の申請に加えていただくことができます。
※ご不明な点は事務局までお問い合わせください。



念願のグランドキャニオンにて。広大・雄大な自然を前に、言葉が出ませんでした（写真筆者）



テキサス BBQ ワールドカップ観戦で訪れた日本人にも大人気。肉と野菜、ボリューム満ちます。

◆民主主義フォーラムに参加し、「友愛」は世界の共通語だと実感しました。戦争は人の命だけではなく、母なる地球にも深い痛みを与えます。鳩山邦夫元理事長の「自然との共生」と平和の重みをあらためて胸に刻みたいと思います。（大）
◆大水がでたり、地震があったり、被害にあわれた方々の思いはいかばかりかと、手を合わせることでしかできない私です。この歳まで、このような災害はなかったような気がします。大水といえば河川の氾濫で、線状降水帯などという現象も聞かなかったと思います。酷暑という言葉が当たり前になってしまう夏の日々、生活道路がいきなり冠水する状況など、やはり地球が熱せられてのことでしょうか。本気で温暖化を心配する必要があります。熱中症で、動物園のライオンが亡くなりました。（も）